

実施日：11月30日（3校時）	
領 域：教科	
取組名：チームの勝利をつかもう	
対 象：3年生	実施場所：運動場
ア ねらい <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の役割を自覚し、責任をもってやり遂げようとする。 ・ チームの仲間とともにパスをつなぎ勝利する。 ・ ルールの中で活動し、マナーを守り行動できる。 	
イ 指導内容（指導略案）や取組の概要 <p>最初の共有課題を「円サッカーをしよう」とする。児童らはそれぞれ単独でシュートをしたがるはずである。目の前にディフェンスがいてもかまわずシュートして、ディフェンスに当たるかゴールをはずす場面が多く見られるだろう。そこで、「パスをつないでシュートしよう」を共有課題とし、パスを回すとディフェンスがふられ、シュートチャンスが増えることに気づかせる。その際、ディフェンスもついてくるので、なかなかゴールできないことが予想できる。そこで、共有課題を「まもりのスキをつけてシュートをしよう」とし、単にパスをまわしてシュートするのではなく、ディフェンスのいないところにパスをして、相手のスキ（守りとのズレ）についてシュートすることが有効なことに気づかせる。また、学習して、みんなで準備や後片付けをすること、作戦カードの記入の大切さ、審判も練習して上手になっていく過程であるために自分の思いとは違う判定になってもその判定に対して素直に従うこと、対戦する相手がいるからこそゲームができるということに対して感謝の念を持つことなどを理解させる。</p>	
ウ 連携先：他学級、家庭	
エ 連携にむけての取組 <ul style="list-style-type: none"> ・ 個人振り返りカードの文言を照らし評価の基準を作る。 ・ 児童の頑張りを学級通信で伝える。 	
オ 組織的な取組とその点検・評価を行ううえでの工夫点 <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学級の実態を交流し、教師からの肯定的フィードバックや矯正的フィードバックの言葉を共有する。 ・ 勝敗にこだわるあまり、トラブルが生じたときに、相手に対して、味方に対して、時には審判に対して攻撃的になることが考えられる。個人への指導と全体への働きかけを並行して行う。全体へは、個の尊厳と集団としての包容力、トラブルを解決する力を培う。 ・ 校内に「人権の木」を掲示し、体育科の授業の中での「自他の頑張り」を見つけ「人権の実」に記入し、貼り付けるとともに人権だより「心ぼかぼか」に児童らの書いた「人権の実」を紹介し、他学級や他学年とのつながりを視覚的に捉えさせる。必要に応じて各学級でフィードバックさせる。 	
カ 評価の方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ チームカード ・ 個人振り返りカード 	
キ 成果 <ul style="list-style-type: none"> ・ 休み時間など主体的に作戦を考えたり、チーム練習を行ったりする中で、得意な児童が苦手な児童を思いやる姿が多く見られた。 ・ チームメンバーの特長を知り、それらを生かす作戦を考えたり、出場以外の選手も懸命にアドバイスを送ったりする姿があった。 	
ク 課題 <ul style="list-style-type: none"> ・ 10時間で設定したが、児童らの技能習得や運動する喜びを考慮すると12時間程度が妥当。 ・ 作戦を立てる時間を十分に確保することが重要。 	